

1912年（明治45年）4月1日創業の吉本興業が創立100周年を迎え、大阪・なんばグランド花月にて4月8日、特別公演が開催され、ベテランから若手まで227人の人気芸人が出演し超満員の客席から大歓声が上がった。

もともと寄席経営からスタートした同社だが、後に大手興行会社へと成長、映画事業のほか、戦前には現:読売ジャイアンツである“大日本東京野球倶楽部”創設に尽力、戦後には力道山をスターにした実績もあり、現在ではTV局や不動産事業などを傘下に抱える業界最大手の複合企業となり「お笑いの総合商社」とまで呼ばれる。

が、大阪のローカル企業を全国区に押し上げた要因は紛れもなく80年代の漫オブームを契機とした東京であり大阪ではない。同社の大崎洋社長は、それまで大阪でしか消費されなかった「大阪の笑い」を“大消費地”である東京のマーケットで売りさばき、今日の隆盛があることを素直に認める。つまり何事につけ東京をライバル視する大阪だが、実は東京あっての大阪であることが理解出来よう。

これは、聖書に出てくる小さな国だったイスラエルが、神が市場を開拓してくれたお陰で大きな国となったにもかかわらず、その恩を忘れ、神を捨て去った話を想起させる。

**「あなたがたはこのように主に恩を返すのか。愚かで知恵のない民よ。主はあなたを造った父ではないか。主はあなたを造り上げ、あなたを堅く建てるのではないか。」**

**申命記 32章 6節**

と、神は彼らに警告を発しているが、彼らは「自分で全てを成し遂げた」と錯覚し滅んでしまった。我々は、自分達を育て大きくして下さるのは、全地宇宙を造られた神であることを認識し、感謝して歩んでいきたいものである。

2012-5-27

